

中国への輸出再開を目指し 大連で県産水産物を販促

令和7年1月13日、中国大連の天正實業を訪問し、孟会長らと水産物貿易再開後の協力体制について意見を交換した。

翌日には魚市場や量販店を視察し流通状況を確認するとともに、同社が経営する陸上養殖施設を見学した。(▽詳細は2面)



(右手奥から)
孟雪松 会長
金星斗 ゼネラルマネージャー



早朝から競り人らの威勢の良い声が響き、市場に活気があふれた。本年の豊漁と、おんせん県おおいたの水産物の更なる魅力発信につなげたい。



7日、大分県農林漁業関係団体は恒例の新年合同互礼会を大分市内のホテルで開催した。全体で175名、水産からは県漁協の役員、各団体の幹部職員ら34名が参加した。

新年互礼会 県農林漁業団体

関係団体を代表して県農協中央会の壁村雄吉会長が挨拶し、佐藤樹一郎知事から祝辞をいただいた。



6日、県水産会館合同の仕事はじめ式を行った。中根組合長は「巳年は力を蓄えたものが芽を出す「起点」の年、脱皮する特性と併せ「再生」と誕生」を意味する。合併から24年目を迎え培った経験を活かし、大胆かつ新たな組織変革をもたらし、起点の年となるよう各団体と役員が一丸となつて取り組み」と訓示した。

豊かな海を願い 初競り 大分市公設市場



新春を迎えた5日、大分市公設地方卸売市場(豊海)で初競りがあった。水産部では5時半から式典が行われ、開設者の足立信也市長らが挨拶した。県漁協の中根組合長は出荷者代表として、昨年11月に開催された第43回全国豊かな海づくり大会の成功に謝意を表し、「大会を契機に本県の多彩な水産物を一層広く発信したい。皆さんの絶大な協力をお願いしたい」と力強く述べた。

JF大分

水産おおいた

2025年
2月
174号

発行元
大分県漁協

<http://www.if-oita.or.jp/>

2面
大連で販促



3面

水研だより
(長期漁海況)



4面

無事故を認定



理事会等

5面

第一弾に
「ひがた美人」



県産魚の日

中国への輸出再開を目指し 大連で県産水産物を販促



天正實業は遼寧省大連に1993年に設立され、水産物に係る仲卸、養殖、加工及び飲食業を行い、大連以外に深圳にも販路を持つ。

県は令和元年、孟会長に農林水産輸出サポーターを委嘱、青島EXPOに県漁協と共同出展し

養ブリをPR、2、3年には天正實業店舗で県産養魚（ブリ、クロマグロ、シマアジ）フェアを開催し、シマアジの本格輸出につながった。4年には深圳で県産養魚（ブリ、シマアジ、マガキ）フェアを開催し、関係者への試食、求評を行っている。しかし5年8月、原発処理水の海洋放出に反発した中国は、日本産水産物の輸入を全面停止。大分と天正實業の取引も中断している。



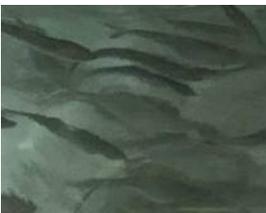
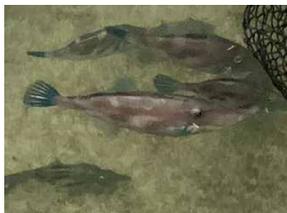
このような中、昨年9月20日、日中両国が水産物輸入再開で合意したことから、今回の訪問となった。大分県からはおおいたブランド推進課、漁業管理課及び上海事務所が参加し、県漁



協からも2名が同行した。

孟会長は、再開の時期は明言できないとしつつも、可能になればブリとシマアジを輸入したいと発言。日本を訪問した際には大分にも来ていただけるようお願いした。また、サバやカワハギの種苗生産技術を学びたい。日本側の協力が得られれば、中国政府の支援もあるとのこと。当方からは、中国の皆さんが好きな脂の乗った養魚をつくる飼料技術開発の可能性についても言及した。

実質1日半の短時間ではあったが、今後の取引にもつながる協議ができたと感じた。



この時期の市場には、春節向けの冷凍魚が多い。ラウンドの真空パックも目を引く。

陸上養殖は規模が大きく、魚種も豊富。自動給餌で少人数で経営している。海面養殖は冬場は0℃に下がり、クロソイ以外は無理。



水 研 だ よ り

大分県長期漁海況予報

大分県農林水産研究指導センター水産研究部(資源増殖チーム)は、本年1月から6月までの海水温、漁模様の見通しを発表した。概要は以下のとおり。

○今後の海況の見通し

■黒潮

・都井岬では、3月までは概ね接岸傾向で、その後は離岸傾向で推移するでしょう。足摺岬沖では、離岸傾向で推移するものの、一時的に接岸傾向となることがあるでしょう。

■沿岸水温

・沿岸水温は、「平年並」～「高め」で推移するでしょう。

○今後の漁況の見通し

■マイワシ

・豊後水道南部への来遊量は、前年並でしょう。(2024年1～6月:197トン)
 ・1～3月は被鱗体長15～20cm前後の1歳魚(2024年級群)、2歳(2023年級群)以上が主体となり、4～6月は被鱗体長7～12cm前後の0歳魚(2025年級群)主体となるでしょう。

■カタクチイワシ(成魚)

・豊後水道南部への来遊量は、前年を下回るでしょう。(2024年1～6月:74トン)
 ・1～6月は0～1歳魚(2024～2025年級群)が主体となるでしょう。

■ウルメイワシ

・豊後水道南部への来遊量は、前年を下回るでしょう。(2024年1～6月:484トン)
 ・1～3月は被鱗体長15～20cm前後の1歳魚(2024年級群)が主体となり、4～6月は被鱗体長10cm前後の0歳魚(2025年級群)が主体となるでしょう。

■マアジ

・豊後水道南部への来遊量は前年並～上回るでしょう。(2024年1～6月:777トン)
 ・尾叉長15cm前後の1歳魚(2024年級群)が主体となり、20cm以上の個体が混じるでしょう。

■サバ類

・豊後水道南部への来遊量は前年を下回るでしょう。(2024年1～6月:216トン)
 ・1～3月は尾叉長25～35cm前後のマサバ1歳魚(2024年級群)～3歳(2022年級群)以上が主体となるでしょう。4月以降はゴマサバも混獲されるでしょう。

詳細は、大分県農林水産研究指導センター水産研究部のHP「長期漁海況予報」まで

<https://www.pref.oita.jp/site/nourinsuisan/gyokaikyuu-chouki.html>

水産研究タイムリー情報

水産研究部で漁業学校を開催しました!

12月20日 水産研究部 企画指導担当

漁業後継者育成のため、県漁協は県と連携して新規漁業者を対象とした漁業学校を開校しています。12月12日に魚類養殖業を志す研修生を対象に、大分県水産養殖協議会の福田氏と水産研究部の研究員が講師となり、養殖基礎技術の講義と陸上養殖の閉鎖循環システムの紹介を行いました。研修生にとって将来自身が行う養殖業に直結する内容であり、熱心に聞き入っていました。



令和8年度の研究課題を募集中!

県農林水産研究指導センターは、農林水産業の振興に役立つ「令和8年度の試験研究課題」を募集しています。漁業や養殖業の現場が抱える技術的な課題などご要望がありましたら、組合員や役職員の皆さんの積極的な提案をお願いします。

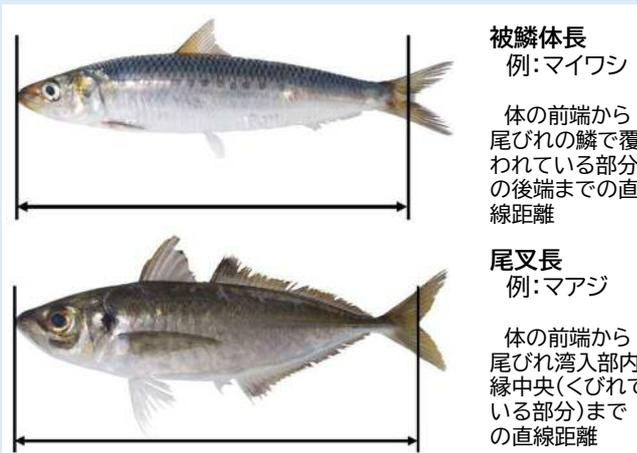
【応募方法】は、大分県農林水産ポータルサイトの「農林水産関係の試験研究に対する要望を募集します」(下記)を参照し、電子申請の場合は「電子申請フォーム」からご要望ください。電子メール、郵送、ファクシミリの場合は要望様式(要望調査)に記入のうえ、県の指定先あるいは県漁協本店にお送りください。アイデアはあるが要望調査が作成できない場合も、本店までご相談ください。

農林水産関係の試験研究に対する要望を募集します

<https://www.pref.oita.jp/site/nourinsuisan/bosyuu20240110.html>

【参考】令和7年度水産関係新規試験研究予算要求課題

- 水産研究部
 - ・EP飼料によるかばす魚生産技術の確立
- 北部水産グループ
 - ・ハマグリの子苗生産および増殖技術の開発



無事故支店に 認定証を授与



「チャレンジ100」は今回で5年目となるが、この間継続して無事故を達成した支店は、宇佐、香々地、国見、くにさき、武蔵、安岐、日出、別府、臼杵、保戸島、米水津、下入津、蒲江及び名護屋の14支店となった。

出席者一同、海難防止を図りながら県民に安心・安全な海の幸を届ける決意を新たにしました。

認定証は、立道英樹大分海上保安部長から、無事故を達成した支店を代表し、大分支店の西田淳一支店長と別府支店の小西英俊支店長に授与された。

冒頭、大分県海難防止強調運動推進連絡会の委員長を務める中根組合長が挨拶し「期間中の海難隻数は4隻で、23の支店、取次店で無事故を達成できた。これは関係者の努力と組合員への周知の成果だが、来年は更に海難事故ゼロを目指したい」と述べた。

「漁船無事故」チャレンジ100 in 大分2024が1月8日に100日間の運動を終え、23日、県水産会館において無事故支店に認定証が授与された。

この取組は、100日間の無事故を目指すと共に、安全操業で漁獲された地元産の魚を広く県民に届ける趣旨で行われた。

杵築ハモ加工処理施設の増強を承認

第9回理事会 ～ 計画的な増資推進を ～

24日、県常例検査講評に引き続き令和6年度第9回理事会を開催した。

第1号議案「組合員の異動について」では、准組合員への新規加入16人及び准組合員から正組合員への資格変更3人について承認した。

第2号議案「総会の部会の開催について（上浦支店）」は原案を承認し2月6日に海区長立会いで開催することとした。

第3号議案「大分県地域活力づくり総合補助金事業計画申請について」では、杵築支店のハモ加工処理施設の増強を内容とする補助金申請



第4号議案「JFマリンネットバンク利用に係る顧客向け「API連携サービス利用規定」の制定および「Fintech企業等との連携及び協働に係る方針」の改正について」原案を承認した。

債権譲渡を了承・信用委員会 加工センターの実績見込み等を了承・販売委員会

24日には、信用及び販売の両委員会も開催された。

信用委員会では、回収が不能となつて4億円余りの債権を系統サービサーに譲渡することを了承した。また、破産先のリース漁船への対応等についても協議した。

販売委員会では、米水津及び蒲江の加工センターの12月末までの加工実績、今後の視察計画を了承した。本年度の12月末までの加工実績は、両センターを合わせて73万

同じ誤りの根絶を

県常例検査講評

16日から行われた県常例検査の講評が24日、全役員出席の下で行われた。各検査員ごとに所見が示されたが、全体としての意見は以下のとおり。

- ・経営管理態勢2件

～組合員のために組合のために～

大分県JF共済推進本部は21日、運営委員会を開催した。

本年度新たに運営委員となった5名に委嘱状が交付され、議事に入った。

まず、12月末の厳しい実績状況が報告され、次年度の活動計画(案)が承認された。また、漁協還元奨励策等の方向性が示された。次いで、共水連本所の肥塚健一参事がJFへの共済事業提案を行った。次年度に向け、スタート・ダッシュ!



協議・報告事項では、①余裕金の運用状況、②令和6年度12月末の「組合員の支店別増資・新規加入者出資金の状況」及び「組合員1名あたりの平均出資金額増減」について報告した。②では、いまだ最低出資額(1000円)が多数を占める支店の例を示し、運営委員が率先して増資し組合員に期日までの計画的な増資を促すよう要請した。

- ・法令等遵守態勢6件
- ・利用者保護等管理態勢1件
- ・オペレーショナル・リスク管理態勢4件(合計13件)

前年同様の指摘もあり、中根組合長は「重ねての指摘がなくなるよう役職員一体となつて対応する」と挨拶した。

九州・中津逸品もん 第一弾に「ひがた美人」



昨年12月13日、中津市役所で新ブランド「九州・中津逸品もん」の認証書授与式があった。

これは、中津市内で生産・収穫された農林水産品や、それらを活用して製造・加工されたものの中から、特に優れたものを中津市を代表する商品として認証する新たな制度。

今回が初めての認証で、中津干潟の養殖カキ「ひがた美人」を生産・販売する県漁協中津支店など5事業者に奥塚市長より認証書が手渡された。

奥塚市長は認証を祝い、生産者の精魂込めた商品を市をあげて全国にPRしたい。一緒に頑張っていこうと激励した。



「ひがた美人」以外の認証品は次のとおり。
・オリジナル新品種のかんきつ「マコボン」(おはら果樹園ファーム)・山国町で育てた「吾一の黒豚、吾一豚」(梶原畜産)・自社生産の堆肥で作った米「やまくに誉」(農業公社やまくに)・餌に米を使った「錦雲豚」(福田農園)

一月は往ぬる、二月は逃げる、三月は去るで、新年はあつという間に過ぎ去ると言われる。月刊紙の編集などしていると、ホント時の流れの速さを実感する。組合員や職員の皆さんの様々な取組を紹介したいと思うのだが、なかなか果たせず、毎月もどかしく思う。先日お参りした神社で厄年一覽を見ていたら、私の生まれた昭和三十三年は来年で数えの七十歳。「古希」だそう。ビックリである。年月には抗えない。ちなみに冒頭の言葉、四月は所説あるが、私は、四月は死ぬほど長いと覚えている。そんな穏やかな日々が来るまで、もうひと頑張り。

編集後記



1月の「県産魚の日」は第4金曜日の24日、佐伯市鶴見から届いたイカ類で「鳥賊フェスタ」を開催した。

おさかなランド植田店ではモイカとモンゴウイカの食べ比べ試食会を実施。試食されたお客様からは「それぞれ違いがあって美味しい」など喜びの声をいただいた。フェスタは盛況で、売れ行きも上々であった。



サカナをたべれば
幸福が見えてくる

番外編

ウオ メシ

シマアジ造り
キグチ煮魚
(中国・大連)

短期間の大連滞在であったが、天正實業さんのご厚意で元魚をいただいた。

キグチはご当地では黄花魚もしくは大黃魚と呼ばれ、魚市場にも多く目立つ商材だった。昼食に立ち寄った羊料理店に陳列されていたので注文すると、煮魚となって登場。淡白でうまい魚だった。

上はシマアジの造り。天正さんの直営店でいただいた。中国の皆さんが好む脂の乗った刺身だ。

